

2026年4月24日
NGK株式会社

半導体製造装置用セラミックスの生産能力を增強 ～石川県能美市に新生産拠点の設立を決定～

NGK株式会社(社長:小林茂、本社:名古屋市)はこのほど、石川県能美市に半導体製造装置用セラミックスの新たな生産拠点を設立することを決定しました。約700億円を投じて新工場を建設し、2029年10月から量産を開始する予定です。新工場での生産は、製造子会社のNGKセラミックデバイス株式会社が行う予定です。

当社は現在、知多事業所(愛知県半田市)と小牧事業所(愛知県小牧市)などで半導体製造装置用セラミックスを生産しています。製品の旺盛な需要に対応するため、石川県能美市にある当社の自動車関連製品工場に隣接した約104,000平方メートルの土地を取得し、新たな生産拠点を設立します。2029年10月から量産を開始する計画で、新工場の稼働によりNGKグループの半導体製造装置用セラミックスの生産能力を約20%增強します。

新工場で生産するのは、半導体製造装置の内部で半導体材料のシリコンウエハーを支持するセラミック製の機能部品(サセプター)です。当社では強度や耐熱性、耐食性などに優れるセラミックの特長を生かし、高機能・高品質なサセプターを開発・量産しています。高温の腐食性ガスやプラズマなどにさらされる半導体製造プロセスで安定した性能を発揮することで、半導体製造における歩留りと生産効率の向上に貢献しています。

半導体市場は、モバイル機器向けに加え、生成AIの普及やデータセンターの拡張などを背景に、今後も中長期的な成長が見込まれています。半導体メーカーでは、先端ロジックや先端メモリー分野における製造プロセスの高度化や微細化についての投資を継続しており、これらの製造工程で使用される当社製品の需要も今後一層高まる見通しです。

また、現状では半導体製造装置用セラミックスの生産拠点が東海地方に集中していることから、今回の石川新工場の設立は、供給体制の強靱化を図るBCP(事業継続計画)の観点からも重要な拠点と位置づけています。

NGKグループは、2050年の未来を見据えた中長期ビジョン「NGKグループビジョン Road to 2050」で、カーボンニュートラルとデジタル社会分野への事業構成転換を目指しています。特に、半導体関連分野は当社の今後の成長を牽引するビジネスの中核と位置づけており、引き続き技術開発と設備投資を通じて、半導体産業の発展に貢献するとともに、デジタル社会の実現を目指していきます。

■ 新工場の概要

名称	NGKセラミックデバイス株式会社 石川工場
所在地	石川県能美市
敷地面積	約104,000平方メートル
延床面積	約51,000平方メートル
生産品目	半導体製造装置用セラミックス(サセプター)
生産能力	約20%増強
設備投資額	約700億円
着工	2027年4月
生産開始	2029年10月
従業員数	生産開始時 約150人(フル生産時 約250人)

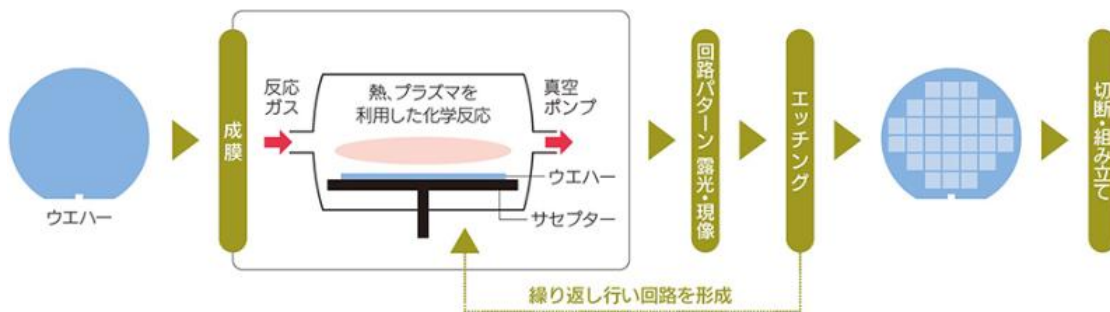


石川新工場のイメージ



サセプター (製品の一例)

■ 半導体の製造プロセスの例(成膜)



※デジタルソサエティ事業の業績(2025年11月4日2026年3月期第2四半期決算発表による)

2025/3 1,716億円(うち半導体製造装置用製品 1,138億円)

2026/3予想 1,950億円(うち半導体製造装置用製品 1,350億円)見込み